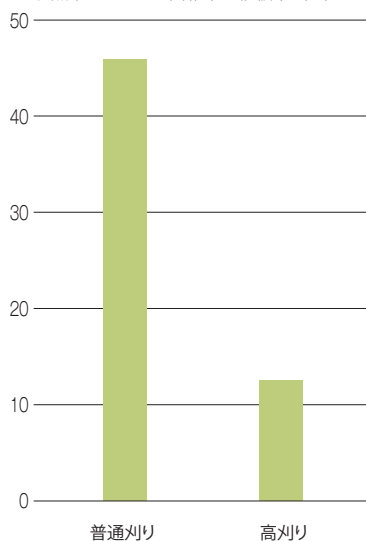


草刈りは、やりすぎに注意 —— 草刈り高が問題雑草の発生に及ぼす影響 ——

あぜや雑草地の草刈りは、雑草や害虫の発生を抑える上で重要な作業である。

ところが、調査してみると草刈りをすることによって、かえって田んぼの害虫である斑点米カメムシが増加してしまう例が見られた。雑草や害虫を抑えるはずの草刈りによって、どうして害虫が増えてしまったのだろうか？

斑点米カメムシの餌雑草の植被率 (%)



高草刈りによるイネ科雑草の抑制効果

イネを食害する斑点米カメムシは、イネに移る前には、田んぼの周辺に生えるメヒシバやエノコログサ、イヌビエなどのイネ科の雑草に生息していることが知られている。

ふつうの植物は成長点が茎の先端にあるのに対して、イネ科の植物は成長点が地面に近いところにあることから、草刈り作業によって成長点を失うことが少なく、草刈り後の伸長が他の雑草より早い特徴を持っている。そのため、草刈りをやりすぎると、イネ科以外の植物の成長が抑制され、イネ科の植物ばかりが広がってしまうのである。とはいえ、草刈りをまったくやらないわけにはいかない。

そこで、県内 10 地区を対象に、草刈り時に高さを少し高くすることによって、イネ科以外の植物に対するダメージを弱くすることを試みた。まず心配されるのは、草の高さが押さえられずに高く伸びてしまうのではないかということである。しかし、草刈りによって横に伸びる植物が広がり、通常の草刈りに比べて目立つほど高くはならなかった。それでは、イネ科雑草の抑制効果はどうだったのだろうか。草刈りの時期や、もともと生えている植物の種類数によって効果は異なるが、いずれの試験においても高く草を刈ることによって斑点米カメムシの発生源であるイネ科雑草を抑えることができた。

草を高く刈ることは、刈り払い機の刃で石を飛ばしたりすることも少なく安全性の向上も期待される。現在、複数の農機具メーカーと共同で高草刈り用の刈り払い機の開発に取り組んでいるところである。

(稲垣栄洋)

